

(様式第4号) 市民による事業評価(地域リーダーの育成) 会議概要

1 審議会名	市民による事業評価(地域リーダーの育成 第6回)
2 日時	平成25年8月19日(月曜日)午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	城南公民館 第5学習室
4 出席者	大井定雄TL、関美佐子STL、長崎理恵子委員、鈴木永委員、西沢宗夫委員 丸山かず子委員、宮之上孝司委員、宗田光一委員、柳沢裕子委員、山田英喜委員
5 市側出席者	山宮市民参加・協働推進課長、鳴沢福祉課長、倉沢塩田公民館長、 綿内川西公民館長、北沢市民参加・協働推進担当係長、 深町健康福祉調整担当係長、中村行政改革推進室長、西澤行政改革推進係長、 他行政改革推進室2人
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成25年8月26日

協議事項等

1 開 会(中村行政改革推進室長)

2 チームリーダーあいさつ(大井チームリーダー)

以下、チームリーダーを「TL」、サブチームリーダーを「STL」

3 議 事

(1) 前回会議録の確認

・修正なく承認

(2) 視察についての意見交換(以下、わがまち魅力アップ応援事業を「応援事業」)

(委員) 「加美幡蕎麦愛好会」については、自分が属する自治会での事業であるが、愛好会の存在は知っていたが「応援事業」を活用した事業であることを知らなかった。自治会だより等により広報されたと思われるが、地域住民にあまり知られていないのではないかと。また、地元の夏祭りで愛好会もPRコーナーを設け宣伝をされていたのを拝見したことがあるが、あまり積極的に宣伝をされているように見受けられなかった。

「応援事業」を活用し、継続して実施する事業とは言えないのではないかと感想を持った。

「愛宕山遊歩道整備事業」については、地域の住民が広く参画していることから継続性があるように思う。また、パワースポットという付加価値的が生かされていると感じた。

(委員) 私も同感である。仮に、荒廃地に蕎麦でなくコメを作りたいとなった場合は、「応援事業」として採択されるのか。

(事務局) 単純なコメ作りだけでは対象にならないが、そのことをもとに地域づくりを行っていくとする事業の組み立てがあれば対象になると考える。

また、事業の採択は地域協議会で審議するが、コメ作りには規制もあると考えられるので、申請があった場合には農政部局とも調整し、市としての考えを地域協議会にお伝えしたうえで審議いただくことになる。

(委員) 蕎麦や麦は奨励作物で、栽培にあたっては国県の助成制度があり、荒地の伐根にも国県から補助金が出る。また、愛好会によると会員への現物給付があるとのことだが、公共性の点で疑問であることから、行政が「応援事業」として支援するのはいかがかと思う。

「応援事業」は、上田市の発展のための事業でなければならぬと思う。リーダーの育成も必要であるかもしれないが、事業の原点に戻り、採択の基準を整理すべきと思う。

(委員) 今の意見に反対の立場だが、「応援事業」の補助を受ける以上責任が生じるのは当然であり、個人のためでなく、地域のために事業を行っている。また、自治会など小さな単位で(地域づくりの)力が出てこない、まち全体の魅力アップにつながらないと思う。

例えば、市が整備した遊歩道は、2~3年経過すると荒れてしまうことが多いが、「応

援事業」に採択され自ら労力を出し整備した箇所は、その後の住民の関わりが全然違ってくる。愛宕山遊歩道整備事業が地域の力で維持できていることは、「応援事業」の支援を受け実施した価値があるのだと思う。

また、地域を大切にしていることが、子どもや若い人達に伝わっていくことが大切で、皆で知恵を出し合い事業をするということが「応援事業」のひとつの目的と思う。

ただ、「加美幡蕎麦愛好会」については、他の地域でも同様の事業を行っているので、今後どのように連携させていくのか、まちづくりコーディネーターの役割と思う。

各地域を連携させ、事業をどう拡大させていくのかがこれからの課題ではないか。神畑と武石が連携し、蕎麦の増産につながっていけば地域全体の力が増してくると思う。

(委員) 地域の魅力アップは大いに必要とは思いますが、例えば、市内に数ある太鼓のグループや、棚田の保存団体も補助金がなくても地域のために活動しているが、年間1億円も税金を投資する意味があるのか。本当にやる気があるのであれば、補助金が無くとも実施できるのではないかと。

(T L) 太鼓のグループに関して言えば、宝くじ補助金、競輪関係の補助金を受けているところが多いのではないかと。地域の寄附等それぞれ努力があると思うが、「応援事業」として補助金を出している事例はあるのか。

(事務局) 一部にはそのような団体があるが、多くの団体は、宝くじの収益金を活用したコミュニティ助成事業の助成を受けている。

(委員) 「応援事業」は補助金のバラ撒きの感が否めない。

上田市は、車で1時間あればどこでも行ける地域であるので、地域という単位は上田全域でいいのではと思う。上田全域で物事を考え、蕎麦の栽培という事業であればそれをどうバックアップしていくか、また、愛宕山を全国にPRしたければ、上田市全体としてどのように応援するか、という視点でものを考えていけば、今後、地域だけの利益に留まらずもっと発展すると思うし、参加する人も地域だけでなくではないかと。

行政が管理し易い形態をとるのではなく、ひとつ一つの事柄に特化し予算を充て、上田市全域で考えれば人も集まるが、地域を特定してしまうため人も集まりづらいと思う。

(委員) 「応援事業」の審査は厳しく行われており、厳しい審査を経ての事業であるため、事業に対する思いや情熱がなければ事業自体実施できないと思う。

(委員) 確かに上田市は車で1時間あればどこへでも行けるが、合併した4地域がそれぞれ輝いていくことが上田市全体の魅力になっていくと思う。

また、「応援事業」を活用した事業のほとんどが手弁当である。儲かるなどということはないため、補助金が無くなったら事業を継続していけるのか不安な事業が多いのではないかと。補助金が無くても事業が継続でき、地域に根ざせれば素晴らしい事業になるのではないかと。

(T L) ほぼ意見が出たと思われるので、まとめ方について協議したいと思う。事務局から説明を。

(3) これまで出された意見について

(事務局) (山宮市民参加・協働推進課長から、今年度の「地域づくりコーディネーター養成講座」(以下、「養成講座」)について説明)

(西沢行政改革推進係長から、全体のまとめ方について資料に沿って説明)

(委員) 「養成講座」については、地域づくりの分野によってコーディネーターの問われる資質が違ってくことや、そもそも事業の目的があいまいである等厳しい意見が出たと思う。

また、事業を大学へ委託しているが、委託しただけでは専門のコーディネーターの養成にはつながらないと思う。

まちを良くするのも悪くするのも行政であるので、行政も事業に踏み込み取り組んでほしいと思う。

(委員) 行政だけでなく、市民ひとり一人の力がまちを良くしていくことにつながるのではないかと。

か。そうであるからこそ、この事業評価も意味があることになる。

「応援事業」であっても、「養成講座」であっても、まちを良くしていくのは市民の力であり、行政はそれを支援する立場にあると思う。

(委員) 確かに言われるとおりだが、現実問題として、上田市の行政を司るのは役人であり、市民の意向を反映しながら施策を進めて行くシステムになっている。

本来であれば、議員が事業の取捨選択の議論をすれば良いだけと思うが、なぜこのような委員を選定し、議論をする必要があるのか。議会で行うことこそがあるべき姿であると思う。

(委員) 「養成講座」は、これまでの方法だと受講者の横のつながりが出来づらいと思う。今年度開催の案内を見ると、ワークショップを多く取り入れるなど改善されていると感じるが、もう少しワークショップの時間が必要と思う。

また、受講後の受講者のつながりについても工夫してもらい、受講者が活躍できるフォローアップがあれば講座が輝いてくるのではと思う。

(委員) 「養成講座」を受講した方が、行政と共に催し物の実施に関わるなど、コーディネートができる場所づくりがあればいいと思う。

(委員) 「養成講座」は単年度でなく、例えば、1年目は座学、2年目はワークショップや参加者による上田市全域に係る魅力アップ事業の企画をするなど、2年程度の期間で実施したほうが良いのではと思う。短い期間で終了すると、勉強するだけで終わってしまい、それを生かせないのではないか。

また、2回、3回と受講を促すため、内容の異なる講座を用意する必要があると思うし、「養成講座」の受講を、消防団やPTAにも働きかけたらどうか。

(委員) 過去に受講した際、50名を超える参加があったが、地域活動のヒントが欲しかったにも関わらず、そのヒントがつかめず講座を聴くだけで終わってしまったことがあった。

また、講座の受講案内に講座が目指す具体的な内容をもっと示さないと、コーディネーターになりたいと受講する人は少ないと思う。そもそも地域のコーディネーターになりたいと思う人自体が少ないと思うので、もう少し魅力的なパンフレット作りをすべきと思う。

(委員) 広報掲載記事を見ただけでは、講座の最終的な目的が見えてこない。以前、東京で市民を対象にしたNPO法人設立を目的とした講座を受けたことがあるが、目的がはっきりしていたため具体性のあるカリキュラムであった。そのような明確な目標がないと応募した方に満足してもらえない内容、魅力がない内容のままで終わってしまうと思う。

結局、カリキュラムの内容によるのではないか。何か形として残すことを目的に講座を実施すれば、意気込みも違うと思う。

(委員) また、今年度の「養成講座」はテーマがそれぞれ違い、連続性が感じられない。テーマによっては1回限りというものもあるが、1回の受講でコーディネーターの養成までできるのか疑問である。講座に連続性を持たせるのか、様々な内容を組み合わせていくのかははっきりしていないのでは。

(事務局) これまでの講座は、まちづくり、地域づくりという概念的な内容で、大学教授がそれぞれの分野について講座を開催してきた。

今年度の内容を検討するにあたっては、多くの人に参加してもらいたいという視点から地域づくりに関連した講座を設け、活動のヒントになればと思い設定させてもらったところである。

(委員) 市では、講座の内容について事前に把握しているのか。例えば、今年度第2回目の講義「食」と「農業」で地域づくりをしよう!はどうか。

(事務局) この講座を受け持つ講師は、地域づくりを実践している方で、その実践と経験に基づいた講義をお願いしている。

(委員) あくまでも養成講座であるので、講義内容がそれに沿ったものか、市の事前チェックは必要と思う。

(委員) 地域づくりの「地域」は非常に幅が広く、様々な分野がある。その地域づくりをコーデ

ィネートするには高度な専門知識が必要となる、という意見は前回申し上げたが、今年度の講座内容を見ると総花的と感じる。

資料2頁3の に、「地域づくりの間口が広いことから受講者のレベルにあった講座の組立やポイントを絞った内容が望ましい」とあるが、ここを強調したい。

また、3頁3の に、「受講修了者の活躍の場、機会の確保、フォローの実施が必要」とあるが、講座を開くもののその場かぎりになってしまうことが多い。受講後の参加者の活躍の場というものも、主催者の責任としてある程度は提供することも必要ではないかと思う。

(委員) 今年度の講座内容には様々な分野があるが、まず興味を持ってもらうにはいいと思うが、そこから先につなげていこうと思うと2時間では限度があると思う。興味を持ったものに関して、さらにどういう方向で地域おこしに関わっていけるのかと深く掘り下げる場としていけないと、参加しても後につながらないと思う。

(委員) この「養成講座」は、あえて開催しなくてもいいとも思う。

「応援事業」に申請しようとする人は、コーディネーターにもふさわしい人材であると思うし、そういった方がコーディネーターとしての役割を果たしていく可能性も出てくるのではないかと。総花的な養成講座より、その具体的な動きを利用する方向に変えていけばよいと思う。

(委員) 「養成講座」への参加者数が、ひとつの評価指標になるのはどうかと思う。例えば受講者が5、10人程度であっても、コーディネーターが養成できたのであれば評価されるようになればいいのではないかと。

また、「応援事業」のリーダー間の連携を図り、事業をさらに拡大させるために、「応援事業」に取り組んでいるリーダーを対象にした講座もいいのではないかと。

<休憩>

(T L) 今回の事業評価においては、事業の必要性、公平性、有効性、効率性の4つの視点から、廃止、民間で実施、民間に委託、事業の拡大、縮小、改善などある程度具体的にしなければならぬ。

これまでの意見は、「養成講座」については、ある程度見直しをしなければならないという意見と思うが、どのような方向が良いのか、継続としたらどのように継続したら良いかなどまで含めて、具体的な意見を伺いたいと思う。

(委員) 興味を持つきっかけとすれば、様々な分野の講座でいいと思うが、その中で興味を持つ方が多い分野が分かれば、その分野に係る講座については継続していけばいいと思う。

今年度の講座内容にすれば参加者は増えると思われるので、参加者からアンケートをとり興味が集まる分野が分かれば、その分野の講座を継続していく。仮に、講座のテーマを絞ったとしても、そもそも興味がある人が多いということが分かれば、参加者も集まりやすいと思う。

(委員) 「養成講座」は、実施方法を変えていく必要があると思う。

既に活躍している方が多いので、講師を市民がしてもいいかとも思う。身近に目標となるリーダーがいることが分かれば目指しやすくなるし、より活動も広がっていくと思う。総花的な講座と専門的な講座に分け実施してもいいのではないかと。実践的に活動してきた方をリーダーとして掘り起こしていくことが、市民参加・協働推進課の仕事であって、講座をより良くしていくための方策と思う。まちづくりの再生は、自分たちのリーダーの再生からであると思う。

(T L) 「応援事業」において、リーダーシップをとり実践している方に講師を行ってもらおうという意見と思われる。既に実践している事業自体の拡大につなげていくことにもなり、成功例を学べる機会にもなると思う。

もう一点の、講座の内容については具体的にはどういうことか。

(委員) 地域づくりのきっかけとなる講座を受講し、その後の興味が高い分野を定めてもらうことも必要と思う。

先程の意見のとおり、講座受講後のアンケートなどで次年度の講座の内容を決めてもいいと思う。

(委員) 私も同意見である。大学の先生の話は知識として頭の中を通り過ぎていくだけだが、地域で実践されている方の実体験の方が身近に感じ、ヒントも得られると思う。

(T L) 他に意見はあるか。今回は、評価のまとめまではできないので、次回、具体的な方向性を決めたいと思うが。

(委員) 今、評価してしまえばよいのではないか。

(事務局) 「地域づくりコーディネーター養成講座」の事業の方向性とすれば、事業の「見直し」というご意見が大半と思うが、今日の議論を踏まえて、意見をまとめたものを次回お示しできればと思うが。

(委員) 「見直し」か「廃止」かについてはこの場で分かると思う。それだけは今日決めるべきではないか。文章の中身については事務局でまとめてもらい、次回、その確認を行うということで良いのではないか。

(T L) 今日出された意見を、事務局と共にまとめ次回お示しすることとしたい。

4 次回の開催日程について

・第7回 平成25年9月30日(月)

5 閉会